

私のほっと HOT

きらっとLIKE WORK

KAWACHINAGANO CITY

とな時間

河内長野で輝いている人に聞きました

VOLUME
10

日本語サロン生徒(カンボジア出身)
イム ダーネットさん



大好きな日本人と
たくさん話せるようになりたい

ほっと
大切にしているもの
POINT

「日本語がもっと上手になりたいんです!」と笑顔で話すのは、国際交流協会(KIFA)が主催する外国人向け日本語支援活動、「日本語サロン」で学んでいるカンボジア出身のダーネットさんです。2023年、結婚を機に市内へ転居してから日本語サロンへの参加を始めました。

現在は市内にある夫の実家で、義父母と一緒に暮らしています。「はじめは日本のごはんの味が薄く感じて慣れなかったけど、今はお義母さんのごはんが何でも美味しいよ」と話し、この料理はどうやって作るの?とレシピを教えてもらうほどに。また、週に3回働く病院の厨房でも職場の人たちと良い関係を築き、調理の仕事を頑張っているそうです。

日本語サロンでは、ひらがなやカタカナを習得し、今は漢字の勉強に力を

入れています。「漢字は難しいけど、分かると楽しい。車で家族と出かける時には思わず道沿いの看板の漢字も読んでしまいます」と笑います。現在は日本語能力試験N3*の合格を目指し、びっしりと書き込まれたプリントや教科書を見せてくれました。

家に帰ってもテキストに向き合う真面目さに加えて、人懐っこい性格で先生や家族とも仲が良く、普段のコミュニケーションからも日本語を学ぶダーネットさん。「もし外国から河内長野に来た人で孤独な思いをしているなら、日本語サロンに来てみたらいいと思うよ」と同じ境遇の人のことも思いやります。

「それに河内長野はまちがきれいで親切な人が多いね」と話すダーネットさんは、周りの人たちに温かく支えられ、これからもチャレンジし続けます。



日本語サロンメンバーも参加したグローバルカフェの様子と、使い込まれたテキスト

KIFAが実施するグローバルカフェでは、昨年母国カンボジアのお粥を作ってふるまいました。当日は約40人分のお粥を緊張しながら提供しましたが、完売するほどの人気ぶり。たくさんの人に「おいしかったよ!」と言ってもらったことも嬉しかったそう。また機会があればやってみたい、と話してくれました。

*N3…日常的な場面で使われる日本語をある程度理解できる中級レベル